

とがしやかた  
富樫館跡

富樫館跡は、加賀国の守護富樫氏が構えた館で、国内の政治拠点の場であった守護所であります。

1994年(平成6)、住吉町地内での発掘調査で、館の周りを巡っていた堀の一部が見つかりました。堀の規模は幅6～7m、深さ2.5mで、中から14～16世紀前半の陶磁器類や鏡が出土しました。

発掘調査の面積が小規模のため、館の全容はわかりませんが、1858年(安政5)<sup>あんせい</sup>に描かれた絵図から、100～120m四方規模であったと推定されます。

守護所には、京の都<sup>みやこ</sup>の屋敷のような、公式謁見<sup>えっけん</sup>の場である主殿<sup>しゅでん</sup>や日常生活の場となる常御殿<sup>つねごてん</sup>等の建物、庭園を構築していたことが、国内各地の発掘調査で明らかになっています。そこでは、地方政務だけでなく、都に習って<sup>ぎれい えんかい</sup>儀礼や宴会などが催されていました。

富樫館跡は、内部の発掘調査を実施していないため、詳細な様相はわかりませんが、他国の守護所と同様な御殿建物や庭園施設などがあったと考えられます。